

『政宗の夢 常長の現』

2019年11月27日

宮城県慶長使節船ミュージアム 濱田 直嗣

1 伊達政宗と支倉常長

伊達政宗 (1567~1636)

- ・戦国時代の武将“独眼龍政宗”。
- ・伊達62万石の国づくり。 ・慶長使節を決行した奥州王。

支倉六右衛門常長 (1570~1621)

- ・出身地と領地。(陸奥胆沢郡小山など600石の知行地押領)。
- ・政宗側近の使い番、手明き衆として葛西大崎一揆や文祿の役を経験。  
父の切腹に連座追放。欧州派遣の大使抜擢。帰国1年後に死去。
- ・人柄(沈着冷静。敬虔。知的。熱心。大胆。好奇。ユーモア。伊達者。)

2 使節派遣の“虚説・実説”

- ・徳川政権奪取の野望。 ・ソテロ神父の司教就任への策謀。
- ・“きこえ”(名声)の獲得と南蛮征服。 ・夢と現の間
- ・慶長大震災からの復興と国づくり。

3 慶長(遣欧)使節(1613~1620)をめぐる世界

- ・慶長11年10月28日(1611・12・2)発生の大震災。大津波。  
答礼大使・探検家セバスティアン・ビスカイノが三陸町・越喜来で遭遇。  
規模と被害 M8~8.5。10~20mの津波。犠牲者1800~5000人。  
震災直後に大エスパーニャ(スペイン)帝国への外交構想が表面化。
- ・目的 スエバ・エスパーニャ(メキシコ)との通商交易と領内キリスト教容認に伴う宣教師の派遣要請。
- ・派遣時の複雑な内外情勢。  
関ヶ原戦の後、大坂ノ陣の前後という政治・軍事状況。  
スペインとイギリス・オランダの抗争。キリスト教旧教と新教の対立。  
カトリック内イエズス会とフランシスコ会の反目。  
国内がキリスト教禁圧と容認に分かれる過渡期。家康死去に伴う変化。
- ・大航海時代に挑んだ使節の7年間、5・2万kmの軌跡  
メキシコ、キューバ、スペイン、フランス、イタリア、パチカン、フィリピンを歴訪して展開した日本初の対欧州公式外交。

・グレートジャーニー

太平洋と大西洋、地中海、温帯～熱帯を往復した最初の日本人。(外交  
社交 巡礼 探検 文化の交流)

#### 4 使節船サン・ファン・パウチスタ号 (500ト 伊達の黒船)

・造船地と出帆地 杜鹿半島月浦 (雄勝)

・資材 仙台領気仙、東山 江刺 胆沢から伐採

・造船要員 セバステイアン・ビスカイノ一行、幕府船手方(向井将監 ウ  
ィリアム・アダムス) 仙台藩関係者

・乗組んだ人たち (180人余)

大使支倉常長 大使ルイス・ソテロ神父 宣教師 通訳 スペイン答礼  
大使(探検家)セバステイアン・ビスカイノ 南蛮人(船長 航海士 拳  
帆長 砲手 船大工 理髪師兼医師 記録係 奴隷ら) 仙台藩士と従者  
徳川幕府関係者。各地から参集の商人。各地のキリシタン代表その他。

・通商提案における交易品の種類。出帆時には1000梱の交易品を積載。

中国の織物、工芸品。アジア諸国の胡椒、丁子、粟等。日本製品・生糸、  
陶磁器等を仙台領から輸出。日本への輸入品は、オランダの麻織物、ミラ  
ノとカスティリアの織物、装飾性豊かなコルドバ革、フランドルのタピス  
トリー、ルーアン織のシャツ、セゴビア産の黒薄絹、フィレンツェ産黒ラ  
シャ、葡萄酒、アーモンド、櫃、鏡、らくだの毛織物、ビードロ・コップ、  
山羊なめし革靴、石鹼、薬品類等。

(参考 欧州に知られた仙台領内の産物)

小麦・大麦・米・牛・鹿・猪・豚・馬・雉。鶏・鶉・鳩・雁・鷹・鶴・  
鮭・鱈・金・銀・銅・鉛・鉄・木材・硝石・水晶・油・紙・麻布・美酒

#### 5 慶長使節構想にみるイノベーション (新領国経営、ハブ、特区)

・交易が持つ多機性の活用(貿易による物資、人、技術、情報、文化の相  
互交流が生み出すエネルギー獲得。)・通商和平条約と交易方策の今日性。

・維持された幕府との連携と政宗の実力。新時代へのイノベーション。

#### 6 使節が担った慶長大震災の復興

・復興に資する南蛮貿易を実現するために、帰国時期を想定して石巻港と  
北上川等の領内河川整備を本格化。河川改修、新田と塩田開発に向けた  
人材登用。 計画挫折後の河川と澁瀬川による千石船の江戸廻米に連結。

#### 7 ユネスコ世界記憶遺産登録の意義